

2026年5月

## オープンサイエンスに関する原則の宣言（和文仮訳）

[Statement for Principle: Open Science]



### 前文<sup>1,2</sup>

オープンサイエンスに関する政策的議論は、アクセスおよび倫理（責任あるオープンアクセス）に関する問いを超えて、誰の知識が重要とされるのか、誰がアジェンダを設定するのか、誰に資源が配分されるのか、そして誰が利益を得るのかを問い直す段階へと進化してきている。不平等の再生産を回避するために、オープンアクセスは、先住民、地域、および実践に基づく伝統を含む多様な知識体系全体にわたる知識の共創およびスチュワードシップ（管理）を積極的に支援すべきである。

オープンアクセスは、地球規模の課題に対処するために不可欠であり、科学に対する信頼の強化にも寄与し得る。研究のライフサイクル全体を開くことによって、オープンアクセスは透明性、アクセス可能性、協働および社会連携を促進し、科学的発見を加速させ、社会的インパクトを増幅することができる。しかしながら、オープンアクセスは単一の万能の技術的解決策ではない。変革的であるためには、オープンアクセスはすべての人にとってアクセス可能であるべきである。すなわち、多言語であり、超学際的であり、研究サイクルに関与し多様な知識体系を代表する、従来の科学コミュニティを超えた集団にも開かれている必要がある。同時に、「可能な限り開かれ、必要な限り安全である（as open as possible and as secure as necessary）」という原則を尊重する必要がある。

公的研究資金配分機関のグローバルなフォーラムとして、グローバル・リサーチ・カウンシル（GRC）の参加機関は、地域および分野を横断してオープンアクセスがどのように解釈さ

---

<sup>1</sup> グローバル・リサーチ・カウンシル（GRC）は、参加者に基づく自発的な組織であり、各参加機関がそれぞれの国内研究エコシステムの中で有する異なる使命、権限および任務を認識するものである。GRCの立場、決定または宣言は、参加機関に対して拘束力を持たない。これらを支持することは、参加機関が各国の政策および優先事項と整合的な方法で宣言を採用し得ることを反映するものである。

<sup>2</sup> 米国国立科学財団（NSF）は、研究資金配分機関間の協働および協力に専念する組織としてのGRCへのコミットメントを維持しているが、2026年の原則の宣言および行動要請については、その内容が同機関および米国政府の優先事項と整合していないため、支持する立場にはない。

れ、実施され、統治されるかを形作る上で重要な役割を果たしている。2021 年のユネスコによるオープンアクセス勧告は、本原則の宣言の宣言に情報を与える、世界的に承認された規範的枠組みを提供している。その 4 つの柱は行動領域を構築する上で有用である：(i) オープンな科学的知識、(ii) オープンサイエンス基盤、(iii) 社会的アクターのオープンな関与、および (iv) 他の知識体系とのオープンな対話。研究資金配分機関はこれまで主として最初の 2 つの柱に努力を集中させてきたが、現在では他のアクターおよび知識体系とどのようにより良く関与できるかに注意を向け始めており、それによりビブリオダイバーシティ、多言語性、データプライバシーおよびガバナンス、そしてケアを支援している。

オープンサイエンスは、アクセス可能であり、文脈に配慮し、倫理的に統治された方法で実施されるべきであり、コミュニティの権利を尊重しつつ知識への広範なアクセスを確保し、権力の非対称性に対処することを確実にする必要がある。言語的支配や植民地的遺産といった課題には配慮が必要である。

2021 年ユネスコのオープンアクセス勧告および 2026 年 GRC 「持続可能なコミュニティのための研究」に関する原則の宣言の宣言と整合させつつ、以下の原則は、多様な国家的、地域的および分野的文脈において GRC 参加機関がオープンアクセスをどのように理解し、推進しようとしているかを明確にするものであり、同時に地域のニーズおよび状況を考慮した戦略を設計するものである。

## 原則

### 地域およびコミュニティ主導のガバナンス

すべての人にとって真に利益と機会を促進するオープンサイエンスを前進させるためには、地域およびコミュニティ主導のガバナンスならびに文化的に配慮された政策設計、さらにすべての地域および集団からの参加およびエンパワーメントを確保する公平な資金配分および政策メカニズムが必要である。

地域およびコミュニティ主導のガバナンスは、能力強化の取り組みおよびオープンリポジトリや相互運用可能なデータシステムのような共有インフラを通じて支援されることを必要とする。効果的なガバナンスおよび資金配分プロセスは、共有された原則に基づくべきであり、知識交換および政策対話のためのプラットフォームとして機能するモニタリングメカニズムおよび組織によって支えられるべきである。必須のデータ管理計画および FAIR (発見可能性、アクセス可能性、相互運用性および再利用)、TRUST (透明性、責任、利用者志向、持続可能性および技術)、POSI (オープン学術基盤の原則) といった枠組みは、オープンサイエンス・ガバナンスの不可欠な指針である。

適切に設計されたガバナンス計画は、意味のあるコミュニティ参加、公平な資源配分、および透明な意思決定構造を示すものである。資金支援プログラムは、能力強化、共有インフラ、およびオープンリポジトリおよびデータシステムの長期的スチュワードシップのための資源配分を考慮すべきである。

### データプライバシー、ガバナンス、所有権および自己決定

データ所有権、自己決定およびインフォームド・コンセントは、データプライバシーおよびガバナンスに関するコミュニティ関与型の意見を含め、科学研究のベストプラクティスとして求められるべきである。先住民および地域の知識は認識され、保護されるべきである。研究資金配分機関は、先住民または地域の知識を含むプロジェクトに対して、適切なガバナンス、インフォームド・コンセントのプロセス、および利益配分の取り決めに示すことを求めるべきである。さらに、先住民または地域の知識を含む研究助成は、明確なガバナンス枠組み、文書化された同意プロセス、および公平な利益配分の取り決めを含む場合がある。

先住民の知識体系および先住民データ主権に関する有用な出発点には、先住民コミュニティによって、およびそれらとともに開発された倫理的ガバナンス枠組みが含まれる。例えば、カナダのファーストネーションズによって開発された OCAP®（所有、管理、アクセスおよび保有）の原則、およびグローバル・インディジナス・データ・アライアンスによる先住民データガバナンスのための CARE 原則（集団的利益、統制の権限、責任および倫理）などが挙げられる。

### 可能な限り開かれ、必要な限り安全である

開放性は、単なる技術的目標としてだけでなく、文脈、責任および結果に注意を払う、倫理的かつ人間関係構築の実践としても設計されるべきである。開放性は、「可能な限り開かれ、必要な限り保護される（as open as possible, as secure as necessary）」という原則によって導かれるべきであり、プライバシーおよびデータガバナンス、先住民データ主権、生態系のスチュワードシップ、文化的プロトコル、知的財産、研究セキュリティ、およびその他の経済的および国家的利益に関連する正当な考慮事項を認識するものである。したがって、開放性と安全性は相補的であり、相互に強化し合う力であり、一体として考慮されるべきである。

この文脈において、共有およびアクセスに関する意思決定は、条件付きであり、協議的であり、かつ進展する状況およびコミュニティの視点に応答するものとして理解されるのが最も適切であり、同時に異なる人々の集団に対する潜在的に異なる影響についても考慮を払うものである。先住民およびコミュニティのプロトコルを尊重することは、その参加者の安

全性、感受性および完全性を尊重する、多角的で、公平で、持続可能なグローバルな知識エコシステムの基盤を強化する。この原則は、データ管理政策および審査プロセスにも及び、そこでは開放性と責任ある保護措置の双方が考慮される。例えば、研究データに対する制御されたアクセス管理のようなものが、品質およびインパクトの正当な構成要素として扱われる。

### 生態的および社会的持続可能性

GRC 参加機関は、学術研究者に課されるビブリオメトリクス上の負担（資金的なものおよび出版指標の観点の双方）を軽減するための効果的な方法を特定するために協働すべきである。これには、コミュニティ主導のイニシアティブを強化し、公的資金がオープンで公平な出版方法を幅広く支援することを確保する資金配分のアプローチを奨励することが含まれ、それにより論文処理費用およびその他の著者に課される費用の負担を軽減する。

オープンサイエンスの取り組みはまた、データ集約的研究および人工知能（AI）の環境的側面を認識すべきであり、これらはしばしば特定の地域およびコミュニティに不均衡に影響を及ぼすものでありつつ、エネルギー、水、土地および電子廃棄物のフットプリントを責任をもって管理しながら、同時に継続的なイノベーションを可能にする実践を促進すべきである。

### 地域的および構造的な不平等

オープンサイエンスは、グローバルな研究エコシステム全体にわたる持続的な地域的および構造的な不平等に対処する機会を有する。インフラ、資金能力、著者性、データ所有、言語および可視性における格差は、意図的に緩和されない場合、既存の格差および課題を強固にするリスクがある。いかなる地域またはいかなる国も、アジェンダ設定、ガバナンス、所有権、著者性、インフラ開発および利益配分への公平な参加なしに、データ提供者を主な役割とすべきではない。データおよび知識の地域的所有の重要性は認識されるべきであり、公的研究資金配分機関は、資金支援方針、パートナーシップモデルおよび評価システムの中に、すべての人に対するアクセスおよび機会を組み込む責任を有する。GRC は、ベストプラクティス情報の交換を通じて、グローバル、地域および地方の分断を橋渡しし、責任ある、アクセス可能で信頼できる知識エコシステムを育成する上で中心的な役割を果たす。

### 公共財としてのインフラ

オープンサイエンスは、権力、構造的な不平等、インフラ格差および言語に対する明示的な配慮がなければ、既存の階層構造を強化するリスクを有する。ダイヤモンドオープンアクセスモデル、大学および公的機関所有のリポジトリ、ならびに複数言語への支援は、公平なアクセスのための重要な手段であり、インフラの維持および長期的持続可能性のために専用

割り当てられた投資によって補完され得る。

研究資金配分機関は、公的機関、民間機関または非営利機関とともに、オープンサイエンスのプラットフォームおよびリポジトリのステュワードシップを優先すべきであり、研究コミュニティ、データステュワード、およびすべての地域からの関連する社会的および知識保有集団の代表を含むマルチステークホルダーによる監督下で慎重に進めるべきである。

### 責任ある研究評価

GRC の 2021 年の責任ある研究評価に関する行動要請および 2024 年の責任ある研究評価の諸次元に加えて、偏った指標および限定的なジャーナルベースの指標から、責任ある研究評価へと移行することが、地域的に関連性があり社会的に影響力のある研究を評価するために不可欠であると認識されている。GRC 参加機関は、オープンサイエンスの方針を研究評価改革と整合させることを目指しており、オープンな実践、多様な成果物、および社会的関与を確実に認識し、報いようとしている。

資金配分機関は、評価基準、査読者への指針および報告枠組みを責任ある研究評価原則と整合させ、オープンな実践、多様な研究成果、コミュニティ関与および社会的貢献を、資金配分の意思決定において確実に正式に認識し、還元すべきである。